

## 阿蘇山の噴火に伴う農作物被害防止技術対策について

令和3年（2021）年10月21日

熊本県農業技術課（農業革新支援センター）

### < 露地野菜（ダイコン・キャベツ など） >

- ①作物体の除灰は、ブロワー等による振動・払い落とした後、動力噴霧器、洗浄機などを利用して速やかに洗い流す。
- ②散水する場合は、事前に十分な水量を確保できることを確認するとともに、凍結する危険性のある時間帯は行わない。
- ③降灰が続いている場合は、灰が固まるため水洗いは行わない。
- ④火山灰が堆積した状態で農薬散布を行うと、農薬の種類によっては薬害が懸念されるため、十分に火山灰を洗い流した後に散布する。
- ⑤火山灰が多く降った場合は、次作前に必ず土壌診断を行い状況に応じて酸度矯正を行う。

### < 施設園芸 >

#### 《施設に堆積した火山灰の除去対策》

- ①火山灰の堆積が多い場合は、ブロワー（ミスト機等）を利用して積灰を減らした後、動力噴霧機を利用して水による高圧洗浄を行う。
- ②積灰の少ない場合は、直ちに動力噴霧機を用いて水による高圧洗浄を行う。
- ③洗浄後も火山灰が被覆資材表面に残り、光線透過量の低下により作物の生育に悪影響を及ぼす場合には、資材を傷つけないように注意しながら、寒冷紗など柔らかな素材で払い落とす（硬質プラスチック板の場合は、散水のみで洗浄可能）。

（※ハウス内の光線透過量は、被覆資材面に 100 g / m<sup>2</sup>の積灰があると約 30%、  
200 g / m<sup>2</sup>で約 20%になる）

- ④ハウスの被覆資材面の除灰に多量の水を使用する場合、ハウス内外の排水に留意する。

### 《降灰が続いている時のハウス内管理》

- ①天井及び谷部に堆積した火山灰が、直接作物に付着しないようブロワー等で除去した後、谷部の開閉を行う。
- ②天井及び谷部の堆積火山灰の除去ができない場合、ハウスサイドの開閉で温度調節する。
- ③谷開口部下に内張りビニル等を設置し、谷部開閉による火山灰の侵入を防ぎ、作物への付着を防止する。
- ④野菜類では葉等への微量の付着での影響は少ないが、多量の付着がある場合には、動力噴霧機等により洗い流す。
- ⑤火山灰が堆積した状態で農薬散布を行うと、農薬の種類によっては薬害が懸念されるため、十分に火山灰を洗い流した後に散布する。

### < 畜産 >

- ①火山灰の大量に付着した飼料作物の給与は控え、除灰したものや灰の付着していないものと混合して給与する。
- ②乾草やサイレージは、貯蔵施設の密閉やシートをかぶせ火山灰が入らないよう工夫する。
- ③家畜が放牧中や舎内で降灰に遭遇すると、口、鼻などからの火山灰吸引による気管の障害、涙目、炎症が懸念されるので、畜体への送風や払い落としなどで火山灰を除去する。

#### 【参考1】

水稲は降灰による生育への影響は少ないとされている。

#### 【参考2】

10月20日17:00に高森町の一地点で採取した降灰のpH値は4.5であった。